

公安委員会	平成28年度全国警察柔道選手権大会及び	平成28年9月1日
説明資料No. 1	全国警察剣道選手権大会の開催について	人事課

1 開催日時

平成28年9月6日（火）午前9時から午後6時ころまで

2 開催場所

日本武道館

3 登録選手（柔道・剣道合計445名）

(1) 柔道231名

男子174名・女子57名

(2) 剣道214名

男子122名・女子92名

4 競技方法

(1) 柔道（トーナメント戦）

ア 男子個人戦

100kg超級・100kg級・90kg級・81kg級・73kg級・66kg級・60kg級

イ 女子個人戦

63kg超級・63kg級・52kg級

(2) 剣道（トーナメント戦）

男子個人戦及び女子個人戦

5 今後におけるその他の警察術科大会の開催日程

(1) 10月17日（月） 全国警察柔道大会（団体戦）

(2) 10月18日（火） 全国警察剣道大会（団体戦）

(3) 11月8日（火） 全国警察逮捕術大会及び全国警察拳銃射撃競技大会

1 暴力団構成員等の検挙状況等

暴力団構成員等の検挙状況の推移

区分	年次	H24	H25	H26	H27		増減	
					(1~6月)	(1~6月)		
暴力団構成員等の検挙人員		24,139	22,861	22,495	21,643	10,334	9,426	-908
うち構成員の検挙人員		5,510	5,333	4,734	4,589	2,258	2,244	-14
うち準構成員その他の周辺者の検挙人員		18,629	17,528	17,761	17,054	8,076	7,182	-894
暴力団構成員等の検挙件数		48,484	43,345	39,471	38,482	17,932	17,318	-614

- 暴力団構成員等の検挙人員は減少（前年同期比-8.8%）
- 暴力団構成員等の検挙件数は減少（前年同期比-3.4%）
- 六代目山口組及び神戸山口組の構成員の検挙人員の合計は増加（1,050人、前年同期比+85人。分裂前の六代目山口組との比較）
- 六代目山口組・弘道会直系組長等の検挙人員は増加（35人、前年同期比+10人）

対立抗争に起因するとみられる不法行為の発生件数及び事業者襲撃等事件発生件数

区分	年次	H24	H25	H26	H27		増減	
					(1~6月)	(1~6月)		
対立抗争に起因するとみられる不法行為の発生件数		14	27	18	0	0	29	+29
事業者襲撃等事件発生件数		21	23	8	1	1	2	+1

- 本年上半期の対立抗争に起因するとみられる不法行為は全て六代目山口組と神戸山口組の対立抗争に関するもの

2 六代目山口組と神戸山口組の対立抗争

- 事件の発生頻度の高まり等を総合的に勘案して、3月7日、両団体が対立抗争の状態にあると判断し、全国警察を挙げて集中取締りを実施。
- 神戸山口組を指定した4月15日以降、両団体の対立抗争に起因するとみられる不法行為の発生件数は減少しているものの、5月末には、神戸山口組傘下組織幹部が射殺された事件が発生。
- 引き続き、警戒活動、発生事件に対する徹底的な捜査、組織のトップを含む大量検挙による両団体の弱体化、暴力団対策法の活用等を推進。

3 その他の取組

- (1) 事業者襲撃等事件の捜査の徹底と保護対策の強化
- (2) 工藤會対策の推進
- (3) 暴力団排除の推進

平成28年8月29日、和歌山市内の建設会社において、男性4人が拳銃で撃たれ死傷した事件で、8月31日、殺人・殺人未遂の事実で指名手配中の45歳の男が、和歌山市内の集合住宅の外階段の踊り場で拳銃2丁を所持。和歌山県警察が説得交渉中に男が自ら腹部を拳銃で撃ち、その後、死亡したものの。

1 被疑者

住居 和歌山市

職業不詳

45歳 男性

※ 銃刀法違反で現行犯逮捕後、病院に搬送されたが死亡。

2 殺人等事件被害者

(1) 殺人被害者

住居 和歌山市

会社員 A男 45歳

(2) 殺人未遂被害者

住居 和歌山市

会社員 B男 44歳

住居 和歌山市

会社員 C男 46歳

住居 和歌山県岩出市

会社員 D男 43歳

3 事案の概要

被疑者は、平成28年8月29日、和歌山市内の建設会社において、会議中の被害者らに向け拳銃を発射することにより、被害者1名を死亡させて殺害するとともに、その他被害者3名は傷害を負わせるにとどまり、殺害の目的を遂げなかったもの。

4 捜査の経過

- (1) 8月29日、通行人から「発砲音がした」旨の110番通報により認知。
- (2) 被害者からの聴取により、被疑者は拳銃を所持したまま逃走をしていることが判明。防災無線等で地域住民に情報提供、注意喚起を実施。
- (3) 指名手配及び公開捜査を実施したところ、8月30日、目撃者からの通報により、和歌山市内で被疑者を発見、被疑者は拳銃を数発発砲し、付近に潜伏。
- (4) 8月31日、捜索中の警察官が、同市内の集合住宅外階段の踊り場において被疑者を発見。被疑者は同所に留まり拳銃を発砲するなどしたため、和歌山県警察が説得交渉中、被疑者が自ら腹部を拳銃で撃ったもの。銃刀法違反で現行犯逮捕し、拳銃2丁を押収。
- (5) 被疑者は救急搬送されたが、死亡。

1. 自転車の危険行為の登録状況について

- 自転車運転者講習制度施行後1年間（平成27年6月～平成28年5月）の危険行為の登録件数は15,131件で、信号無視（6,460件）、遮断踏切立入（3,888件）、安全運転義務違反（1,932件）の順に多い状況であった。【P1】
- 登録された自転車の危険行為を年齢別にみると、危険行為は20歳代の割合が相対的に高く、制動装置（ブレーキ）不良は20歳代・30歳代の割合が特に高かった。【P2】

2. 自転車運転者講習について

- 講習受講件数は全国で24件であり、年齢・男女別では20歳代男性の受講が9人で最も多く、講習の原因となった危険行為は制動装置不良自転車運転が26件で最も多かった。【P3】
- 講習受講者の受講後の感想として、反省の弁、責任の重大性の再認識、安全意識の共有等の意見が得られるなど、自転車利用者の法令遵守、安全意識の向上に一定の効果を発揮している。【P4】

（感想の例）

- ・ 当時は悪いことをしているという意識はなかったが、今後は交通ルールを守り、二度と違反してはいけないと認識した
- ・ 自転車は免許がなくても利用できるが、人を死傷させれば罰則や損害賠償が科されることを改めて認識した
- ・ 交通ルールを自ら守ることはもちろん、友人にも重要性について声をかけていきたい

3. 自転車関連事故の発生状況について

- 自転車運転者講習制度施行後1年間の自転車関連事故は93,484件、死者は517人で、前年に比べ事故件数は14,032件（13.1%）減少し、死者数は89人（14.7%）減少した。【P5】

1 人的被害状況（9月1日午前7時00分現在）

- 死者 11人（北海道 0人、岩手県 11人）
- 安否不明者 4人以上（北海道 3人以上、岩手県 調査確認中）
- ※ 岩手県下閉伊郡岩泉町、久慈町を中心に河川増水による浸水被害。

2 警察庁の対応

- 29日午前10時00分に災害対策室長を長とする災害情報連絡室を設置。
- 31日午後1時00分、警備課長を長とする災害警備連絡室に改組。

3 岩手県警察及び北海道警察の対応

- 岩手県警察では、派遣部隊を含めて本部長以下約900人体制。
- 北海道警察では、警備部長以下約340人体制。
- 警察部隊による救助者数186人（9月1日午前7時00分現在）

4 広域緊急援助隊及び広域警察航空隊の派遣

- 広域緊急援助隊（警備部隊）
秋田、宮城（特別救助班を含む）及び山形県警察を岩手県警察に派遣。
- 広域警察航空隊
青森、秋田、宮城、山形、警視庁、神奈川及び新潟県警察の航空機を岩手県警察に派遣。

5 政府の対応

- 29日午前10時、官邸に情報連絡室を設置。
- 29日午後1時30分、関係省庁災害警戒会議（第2回）を開催。
- 31日午前8時、関係省庁局長級会議を開催。
- 31日午後1時、情報連絡室を官邸連絡室に改組するとともに、関係省庁災害対策会議を開催。